



# Rethink フォーラム

# 視点を変えれば、世の中は変わる。

「Rethinkフォーラム」とは、「心みたされる明日をともに創りあげていきたい」という全国各地の皆さまとRethink PROJECTの考えが一つになって開催する地域に根差したイベントです。



## テーマ Rethink「太陽と大地の聖地」信州上田 ～住む人にも訪れる人にも心地よい地域のために～

Rethink「太陽と大地の聖地」信州上田～住む人にも訪れる人にも心地よい地域のために～(企画・制作/信濃毎日新聞社マーケティング局、Rethink PROJECT協賛)は11月、上田市で開催しました。観光資源が豊富な同市の魅力をさらに高め、住民にも観光客にも居心地がいい地域をつかっていくために必要なことについて、上田市長の土屋陽一さん、元・上田市地域活性化起業者の高山慶子さん、日本たばこ産業(JT)長野支社長の園田勉さんが語り合いました。



会場協力=上田市役所

### 出席者



**土屋陽一さん** (上田市長)  
上田市出身。同市職員・市議会議員を経て2018年4月から現職。現在2期目。



**高山慶子さん** (元・上田市地域活性化起業者)  
東京都出身。東急エージェンシー勤務。2019年から3年間、総務省の民間人材派遣制度「地域活性化起業者」で上田市観光課に在籍し、日本遺産のストーリー策定・観光振興に取り組んだ。20年に家族で東京から佐久市に移住。



**園田勉さん** (日本たばこ産業長野支社長)  
東京都出身。1994年日本たばこ産業入社。2020年10月から上信越支社長長野支店支店長。組織改編により、22年4月から現職。戦国武将・真田氏のファンで、プライベートでも上田をたびたび訪れている。

### テーマ01 それぞれが感じる 上田の魅力



多くの神社仏閣があり、『信州の鎌倉』とも呼ばれる塩田平。写真は前山寺(提供:上田市)

「土屋」上田は奈良時代に信濃国分寺が置かれ、鎌倉時代に北条氏が拠点にした塩田平<sup>※1</sup>には文化財が多く残り、戦国時代には真田氏が城と城下町をつくりました。明治以降は蚕糸業が盛んで上田蚕糸専門学校(現信州大繊維学部)も設立され戦後は電子部品などの産業につながりました。ラグビー合宿とスキー場で有名な菅平高原、広大な美ヶ原高原をはじめ自然にも恵まれています。全国屈指の晴天率の高さからロケ地として人気で、「屋根のないスタジアム」とも言われます。食では、六つの酒蔵に加え、ワイナリーやブルワリーもあり、この地ならではの酒が楽しめるほか、(すりおろしたニンニク入りのしょうゆだれで食べる)「美味だれ焼き鳥」が地域に根付く食文化をPRする「文化庁の100年フード」に選ばれました。歴史・自然・文化・食と、多彩な魅力がある地域です。

### テーマ02 日本遺産が 地域の価値を 見直すすきかけに

「園田」上田には2005年まで「JT上田工場」がありましたので、当社にとっては思い入れのある場所です。何と言っても地域の人の温かさが印象的で、今でも「以前は上田工場があったね」と「私も働いていたんだよ」と懐かしい話で盛り上がり、操業停止後は、産官民が連携して文化施設の「サントミュージゼ」をはじめ跡地を整備・活用いただけ、うれしく思っています。

「高山」私は、人が多い都心部から新幹線で90分というアクセスの良さ、大きな魅力を感じます。初めは温泉や上田城跡といった「名所」が目的でも、一度来てみると歴史ある建物や景色、お店など面白いものがいろいろあって、「人それぞれのお気に入り」を見つけれられる地域だと思います。例えば、気に入った喫茶店が見つければ「週末にちょっとお茶しに行こうかな」というのも可能な距離です。

「高山」総務省の「地域活性化起業者」として2019年に上田市役所に着任し、すぐに日本遺産<sup>※2</sup>のプロジェクトに取り組みました。これだけさまざまな魅力があるので、どれか一つを選んで申請するのがとても難しかったのですが、(上田電鉄)別所線の赤い橋(千曲川橋梁)が、神

### テーマ03 「また来たくなる」 地域に向けて



冬至の日、沈みゆく太陽の光が生島足島神社の鳥居の中央を通り抜ける(提供:上田市)

社にいくつも連なる鳥居のように感じられたので、そこを抜けると神社仏閣が広がっているという塩田平の文化財群を中心としたストーリーに絞りました。また、都心から日帰りでも来れる地域だけに、宿泊してもらおうには、夜と朝をどう過ごしてもらおうかが重要だったので、日の出と日の入りに関連したストーリーはびびったりでした。生島足島神社の鳥居越しに見える、夏至の日の出と「冬至の日の入り」は感動的です。

塩田平の人には、「どうしてここが日本遺産なの？」と感じるくらい日々の暮らしの中にある神社仏閣なのですが、それらをつなげることで、地元の人にも改めて誇りに思ってもらえることを目指しました。

「土屋」日本遺産は、地元の人にとっては当たり前の風景が実は素晴らしい価値を持っていると、新しい視点に気付くきっかけになるものだと思います。地域の皆さんは近所の寺社や、そこで開く伝統的な祭りや行事を大切にしている誇りに感じていると思うので、それを外に向けて発信してもらえるとさらにいいですね。

「園田」当社は清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」(通称「ひろ街」)に力を入れており、上田駅をはじめ主要駅や観光地などで定期的に実施しています。活動していて感じるのが、長野県は本当にきれいだということ。地方でも、主要都市は多少のこみが落ちてはいるものですが、上田も長野も松本も、駅周辺に「こみがほとんどなく、探すが大変なくらいです。長野県民の環境意識の高さを感じていますが、「拾う姿」の発信もさらなる啓発につながると考えているので、今後も続けていきます。

私は真田氏が大好きなのですが、マナーの周知につながる、目を引く灰皿ができないかと考え、真田氏の甲冑・赤備えをデザインした屋外灰皿用のマナー啓発ステッカーを作りました。上田市内の飲食店などで使ってもらっています。



※1 塩田平(おだいらい) 上田市街地の西南部に広がる地域で西端には別所温泉がある。鎌倉時代から室町時代にかけて造られた国宝や重要文化財が点在しており「信州の鎌倉」とも呼ばれている。  
※2 日本遺産 地域の特色ある有形無形の文化財群にストーリーを持たせて魅力発信し、観光振興につながる文化庁の認定制度。上田市は「信州上田(塩田平)の太陽と大地の聖地」に認定されている。信州上田(塩田平)の太陽と大地の聖地(信濃国分寺)のほか、生島足島神社をはじめとした塩田平の文化財や雨乞い行事を一つの観光資源としてまとめ、2020年に認定された。



田園風景が広がる塩田平(提供:上田市)

「高山」訪れた人が、その人の言葉で上田の魅力を感じ、発信できるきっかけをつくれると、よくある観光案内とは違った形で魅力が伝わるのではないのでしょうか。

「土屋」論語に「近者説遠者来(近き者説び遠き者来たる)」という言葉がありますが、市民一人一人が喜んで暮らしていれば、遠くからも人が集まってくると思うんです。上田に住む一人一人が地域の魅力をもっと知って、楽しみ、それぞれの言葉で発信してもらおうことが大事だと思います。

今、リモートで仕事をすることも増えて移住のハードルは下がりましたが、「移住イコール定住」ではなく、好きな土地を転々とする人も増えてきました。移住して数年で離れるかもしれないけれど、仲間がいれば戻ってくる。上田に来る観光客や大学生、転勤で来た人たちにとって、そういう地域にならなければいいのでしょうか。

「土屋」例えば、市内の「稲倉の棚田」は、都会の人が棚田オーナーになって地元の人と一緒に農作業をして交流しています。その近くには市で開設したクラインガルテン・滞在型市民農園もあり、移住を試したり仲間づくりができたという仕組みのつなげています。

「園田」これまで以上に上田の魅力を知ることができ、さらに上田が好きになりました。それだけに「もっとアピールできたらいいのに」とも感じます。